

## 解析学Ⅱ演習 12 解答

### 解答 12.1.

(1) 講義ノート定理 7.1.3.(126 頁から 127 頁) より  $f \in L^1_{PG}$ , つまりある  $N \in \mathbb{N}_*$ ,  $c > 0$  が存在し

$$\int_{B_r(0)} |f(x)| dx \leq c(1 + r^N).$$

これより  $|g(x)| \leq |f(x)|$  に注意すれば

$$\int_{B_r(0)} |g(x)| dx \leq c(1 + r^N).$$

従って  $g \in L^1_{PG}$  なので  $\phi_g \in \mathcal{S}'(\mathbb{R}^n)$ .

(2)  $\mathcal{S}'(\mathbb{R}^n)$  は  $\mathbb{C}$ -線型空間であるので  $\phi_{x^\alpha} \in \mathcal{S}'(\mathbb{R}^n)$  を証明すれば十分である. これは任意の  $r > 0$  に対して

$$\int_{B_r(0)} |x^\alpha| dx \leq 2^n(1 + r^{|\alpha|+n})$$

であるので講義ノート定理 7.1.3. よりよい.

### 解答 12.2.

(1)  $u \in \mathcal{S}(\mathbb{R}^n)$ ,  $a > 0$  とする.

$$\begin{aligned} \left| \int_{-\infty}^{-a} \frac{u(x)}{x} dx + \int_a^{+\infty} \frac{u(x)}{x} dx \right| &\leq \int_{-\infty}^{-a} \left| \frac{xu(x)}{x^2} \right| dx + \int_a^{+\infty} \left| \frac{xu(x)}{x^2} \right| dx \\ &\leq \frac{2}{a} |u|_1. \end{aligned}$$

平均値の定理より

$$\begin{aligned} \left| \int_{-a}^a \frac{u(x) - u(0)}{x} dx \right| &\leq \int_{-a}^a dx \sup_{x \in \mathbb{R}} |u'(x)| \\ &\leq 2a |u|_1. \end{aligned} \tag{*}$$

これらより  $F_a \in \mathcal{S}'(\mathbb{R})$  である.

(2) まず  $0 < a < b$  に対して

$$\begin{aligned} F_a(u) - F_b(u) &= \int_{-b}^{-a} \frac{u(x)}{x} dx + \int_a^b \frac{u(x)}{x} dx - \int_{-b}^{-a} \frac{u(x) - u(0)}{x} dx - \int_a^b \frac{u(x) - u(0)}{x} dx \\ &= 0 \end{aligned}$$

よって  $F_a$  は  $a > 0$  によらない. またこのことより  $F_a(u) = \lim_{\varepsilon \downarrow 0} F_\varepsilon(u)$ . ここで (\*) より

$$\lim_{\varepsilon \downarrow 0} \int_{-\varepsilon}^{\varepsilon} \frac{u(x) - u(0)}{x} dx = 0$$

となることよりよい.

**解答 12.3.**

$$\tilde{u}(x) = \int_{-\infty}^x u(t)dt - \left( \int_{-\infty}^{+\infty} u(t)dt \right) e^{-x^2}$$

とすると  $S(\mathbb{R})$  の定義より  $\tilde{u} \in S(\mathbb{R})$  であり

$$u = \frac{d\tilde{u}}{dx} - 2 \left( \int_{-\infty}^{+\infty} u(t)dt \right) x e^{-x^2}.$$

これより

$$\begin{aligned} f(u) &= f \left( \frac{d\tilde{u}}{dx} \right) - 2 \left( \int_{-\infty}^{+\infty} u(t)dt \right) f(xe^{-x^2}) \\ &= \phi_{-2f(xe^{-x^2})}(u) \end{aligned}$$

となるので  $f$  が定数函数ということが示された.

**解答 12.4.**

$$\tilde{u}(x) = u(x) - u(0)e^{-x^2}$$

とすると  $\tilde{u}(0) = 0$  であるので

$$\tilde{u}(x) = x \int_0^1 \tilde{u}'(xt)dt$$

となり,  $S(\mathbb{R})$  の定義より  $\int_0^1 \tilde{u}'(xt)dt \in S(\mathbb{R})$ . これより

$$\begin{aligned} f(u) &= f \left( x \int_0^1 \tilde{u}'(xt)dt \right) + u(0)f(e^{-x^2}) \\ &= f(e^{-x^2})\delta_0(u) \end{aligned}$$

となるので  $f$  が  $\delta_0$  の定数倍ということが示された.

**解答 12.5.**

(1) まず  $f^{(k)} = 0$  から演習 12.3. よりある  $c_0 \in \mathbb{C}$  が存在して  $f^{(k-1)} = c_0$ . これより  $(f^{(k-2)} - c_0x)' = 0$  となり, 再び演習 12.3. よりある  $c_1 \in \mathbb{C}$  が存在して  $f^{(k-2)} - c_0x = c_1$ . これを繰り返せば結論を得る.

(2) まず  $x^k f = 0$  から演習 12.4. よりある  $c_0 \in \mathbb{C}$  が存在して  $x^{k-1} f = c_0 \delta_0$ . これより  $x \delta_0^{(j)} = -\delta_0^{(j-1)}$  に注意すると  $x(x^{k-2} f + c_0 \delta_0^{(1)}) = 0$  となり, 再び演習 12.4. よりある  $c_1 \in \mathbb{C}$  が存在して  $x^{k-2} f + c_0 \delta_0^{(1)} = c_1 \delta_0$ . これを繰り返せば結論を得る.